

令和元年度第1回
 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
 議事録

日 時	令和元年10月28日(月) 開会 午後 2時00分 閉会 午後 4時00分		
場 所	市長公室	出席者数	委員定数12名中 出席者11名
出席者	委員	鏡会長、昼間副会長、岩村委員、金子委員、関根委員、辻口委員、仲田委員、名雪委員、根岸委員、星委員、松島委員	
	事務局	【事務局職員】 水口部長、濱島課長、齊藤副課長、甲佐主査、島根主任	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・富士見市の施策の概要について ・総合戦略に関連する事業について ・資料1 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定めるKPIについて ・資料2 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定める数値目標について ・資料3 人口の動向 ・今後の富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会について ・「総合戦略 進捗確認シート」の見方について(参考資料) ・総合戦略 進捗確認シート(参考資料) ・委員名簿(参考資料) 		
公開・非公開	公開(傍聴者なし)		

会 議 事 項

I 新委員紹介

II 1 開会 鏡会長

- ・総合戦略は、当初地方創生の柱として華々しく始まったものの、最近ではトーンダウンした感はある。
- ・しかし、地域にとっての総合戦略の重要性は変わらない。
- ・今後、総合計画にも反映していくとのことなので、しっかりとした議論をお願いしたい。

2 議事

(1) 数値目標、基本施策の検証等について

- ・総合政策部長より、台風19号の被害状況や対応状況について説明。
- ・事務局より、現在取り組んでいる施策について、「富士見市の施策の概要について」及び「総合戦略に関連する事業について」を用いて説明。また、総合戦略の進捗状況について、「資料1～3」及び「総合戦略 進捗シート」を用いて説明。

質疑応答

副会長：総合戦略の進捗状況について、現状どの程度進んでいると認識しているか。また、外国人受入施策はどのように展開しているか。

事務局：総合戦略の進捗については、家庭学習応援事業などのソフト事業は着実に進めることができている。道路整備、市街地整備、シティゾーン整備などのハード事業は、地権者等関係者との調整が必要となるので、時間はかかっているが実現に向けてしっかりと取り組んでいる。

また、外国人受入施策について、現在、当市に外国人は2,500人程度居住しており増加傾向にある。外国人受入施策として体系的な方針はないが、ごみ分別アプリの導入事業では多言語化を実施しており、今後も様々な分野で外国人施策を展開したい。

会 長：総合戦略の中で、災害対策について明記されているが、今回の台風19号で浸水等の被害が発生している。今後、防災施策についてはどのように展開していくのかを伺いたい。

また、地域における課題について、コミュニティで問題が共有されていないとあったが、コミュニティマップなどコミュニティでの情報等を整理したものがあるのか。

事務局：災害、特に水害については、過去より被害を被っている歴史があるので、市としても力を入れて施策を展開している。しかしながら、水害対策は当市単独の問題ではなく、河川管理者の国・県や河川の上流や下流に位置する自治体も関係するため、国・県・関係自治体と連携しながら災害対策を行う必要がある。また、地域コミュニティのあり方については、様々な施策に取り組んでいるが、町会活動の参加者が減少しているなど課題もあるため、まずは世代間交流も含め、若い世代などに興味を持ってもらえるようにしていくことが大事だと考えている。

会 長：地球温暖化のため、気候も亜熱帯になってきていると言わざるを得ないことから、今後についても、想定以上の災害が発生する可能性は十分にある。排水機場の増設やポンプアップ、雨水浸透柵の設置など市としてもできることはあると思われるので、防災施策を見直すことも考える必要がある。

また、コミュニティの形成については、行政が旗振りをしていても難しい。防災など住民にとっての必要性を訴えていくことが必要だと考える。

委 員：当市の東部地域は低くなっており、河川や水田が集中している。そのため、東部地域における水田の持つ治水機能や遊水機能をどう残していくのか。減災につながる視点を含め土地利用を検討してもらいたい。また、水谷柳瀬川地区のリブレーヌ構想についても、外部の意見を取り入れたうえで、もう一度チャレンジしてもらいたい。

事務局：リブレーヌ構想に関連するところでは、平成28年度に国土交通省及び埼玉県職員に水谷柳瀬川地区まで来てもらい、現地を見てもらったうえで、治水機能と遊水機能の充実について国に要望した。そのような中で、調節池の整備を実施することが決定している。

委 員：調節池機能だけではなく、何かをセットにして、地域で活用できるよう開発が進められるようにしてほしい。

委 員：近隣市町で河川が氾濫してしまったが、当市ではそのような被害がなかった。何か要因があるのか。

事務局：砂川堀の堤防かさ上げ工事やびん沼川上流の渋井水門工事など水害対策を行っている。また、びん沼川では荒川から逆流しないよう、南畑排水機場で調整を行っている。

委 員：台風19号では、避難所が混乱したと聞いている。

事務局：本格的な課題整理はこれからとなるが、校庭が遊水機能を持っている学校については駐車スペースに限りがあり、避難者の自動車が止められない状態であった。また、体育館で寝泊まりをすることになったので、各施設では畳や

体操マットを準備するなど、臨機応変な対応をした。帰宅困難者などの一時避難者が多く発生した場合は収容しきれないことがわかったので、次の災害に備えて準備を実施していきたい。

委員：災害の際は、ららぽーと富士見に自動車を置かせてもらいたい。

事務局：当市は三井不動産株式会社と「災害時における支援協力に関する協定」を締結しているため、ららぽーと富士見近隣の住民については、災害が見込まれる際は事前に許可証を発行し、自動車を置かせてもらっている。

委員：災害の際に、物資や食料の援助を行いたい場合、どこに連絡すればできるのかがわかりやすくなっていると協力しやすくなると思う。

委員：台風19号では、富士見市のホームページを見ても、書いてあることがよくわからなかった。災害時の情報発信について、いかに市の情報を充実させ、発信できるのかなど、重要性を改めて感じた。民間との提携をしながら情報発信をしていくこともひとつだと考える。

事務局：情報を慎重かつ適切に発信していくことを心掛けている。市の状況についてはホームページだけではなく、NHKやテレビ埼玉、記者クラブなどにも迅速に発信している。

委員：仕事をつくるにしても、水害などがあると二の足を踏んでしまう。シティゾーンについて、水害対策についても十分に行ってもらいたい。また、お祭りなど、地域に根差した活動についても、対外的にアピールしていく必要がある。

委員：水子の住宅開発に伴い、水子周辺の雨水が水谷東方向に流れてきているため、別所雨水幹線及び別所雨水ポンプ場の重要性は高まっている。

委員：今回の災害を通じ、地域防災の重要性が再認識されたと思う。これをきっかけに若い人にも町会への参加も含めて地域防災に参画してもらえるよう取り組んでいきたい。例えば、ペットを飼っている若者も多いので、それも切り口に「ペット防災」を実施することにより参加者を増やしていくなど、新たな取り組みについて考えてみたい。

会長：今回は防災施策の重要性を再認識させられた。これまでは既存の施策について議論をすることが主ではあったが、今回は新たな課題について議論することができた。

想定外のことが起こった今は、既存のものを見直す機会であり、市を強くできる取組が可能であると考えている。

数値目標、KPIについては、目標達成に向けて粛々と施策に取り組んでもらいたい。また、その達成度については、今後も引き続き検証していきたい。

い。

(2) 今後の富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会について

- ・資料「今後の富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会について」を用いて事務局より説明

質疑応答

委員：総合計画と総合戦略の一本化について、議論の場は総合計画審議会となるのか。また、「総合戦略」という名前はなくなってしまうのか。

事務局：次回の総合戦略審議会では次期総合戦略へのご意見をいただいたうえで、その内容を含め、総合計画審議会でも内容を詰めていきたい。また、総合戦略が基本計画に包含される形にはなるが、具体的に「総合戦略」などの名称の出し方などについては、現時点では未定である。

委員：総合計画と総合戦略は、目指す方向は一緒であると認識しているが、総合計画に総合戦略を溶け込ませるということで間違いないか。

事務局：そのように考えている。

委員：後期基本計画の6章に分かれた施策目標よりも、総合戦略の3本立ての基本目標の方がわかりやすい。次期基本計画についても、わかりやすいものにしてほしい。

事務局：次期基本計画については、わかりやすいものとしていきたい。

会長：次期総合計画は、市民が中心となって作り上げるものと聞いている。総合戦略審議会でも議論を溶け込ませられるようにしたい。

(3) その他

- ・次回審議会の日程：令和2年3月23日（月）予定

Ⅲ 閉会 昼間副会長

- ・今回の審議会でもいただいた意見については、行政内部で検討していただき、可能な限り次期総合計画の施策に反映し、防災・減災を含め、より一層の福祉の増進を実現してほしい。